

## 平成30年度学校評価（慶應義塾高等学校）

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。
本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一画を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいないが、個々の項目にその要素が含まれる。
学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成20年9月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は教育活動（必修科目・選択科目）、特別教育活動（クラブ活動・生徒会）、安全管理、運営（図書）、学校いじめ防止方針に基づく取組の実施状況について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
<b>教育活動</b>					
<b>必修科目</b>	国語 読解力、表現力およびその基礎となる語彙力の向上を図る。さらに古典教材では、いまここにいる自分へとつながる伝統文化の本質を理解させる。	・古代から現代に至る多くの作品に触れさせる。 ・読解の解説にとどまらず、発展的に考えるよう指導する。	多様な作品を取り上げることで、自発的には気づきにくい、その本質にまで目を向けさせることができた。	B	生徒の興味をよりきめ細やかにすくい上げ、より自発的な態度を育むために、取り組み方をさらに工夫するとともに、1クラスの人数を減らすなどの対策も必要か。
	地理歴史 日本および世界の成り立ちや、各地域の特色を学ぶことで、社会的認識を広め、論理的思考力を養う。	歴史的資料や映像、地図、統計などを効果的に活用しながら、興味関心を高め、幅広い知識を習得させ、深い理解を促す。	担当者の専門性を活かしつつ、資料や映像などを用いながら、歴史的・地理的事象を概ね学ばせることができた。	B	生徒がより主体的、かつ多角的な視野に基づいて問題に取り組めるように、資料や教材の精選に努め、授業を展開していきたい。
	公民 現代の諸問題を取り上げ、政治・経済・法律・倫理等に関する根本原理や諸制度を学ぶことを通じて、現代社会への理解と関心を高める。	現代社会の問題を題材として扱い、その原因と問題解決について深く分析し、発表・討論、グループワーク等で自ら発見・思考・表現させる。	現代における「格差社会」の問題等を扱うことなどで、その原因と問題解決について深く分析し、発表・討論、グループワーク等で自ら発見・思考・表現させることに概ね成功した。	B	今後も現代社会の問題点についてより広く取り上げ、その内容についてより深く探究・分析していくよう努める。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	前向きに取り組んでいる。	A	より自主的な学習習慣と、より正確な計算力が備わるようにしたい。
	理科 幅広い科学の知識を身につけ、科学的な思考法を習得し、生活に関わる現象が科学と密接に関連していることを理解する。	体験的な実験・観察を含む学習を通じて、実際の現象と科学的知識が関連していることを示しながら授業を展開する。	指導要領に示された内容を、実験・観察を通じて、より生活との繋がりが感じられるよう、工夫して授業を展開した。	A	教科書理解と実体験との繋がりを意識させる実験・観察を中心とする展開では、時間数が不足しがちとなる。取り扱う内容の厳選が課題となる。
	保健体育 身体活動を通じ、運動やスポーツの技能を高め、将来の健康的な生活習慣の礎を築く。健康に対する知識を身につけ理解を深める。	個人・集団スポーツを偏りなく授業に配分する。BLS教育を通じ、「命」の尊さを学習する。	保健 BLS（一次救命処置）講習により、健康・安全についての理解が深まった。 体育実技 運動の合理的な実践を通じ、技能の向上と、公正・協力を学んだ。 柔道 安全・礼儀作法などを理解し、自己の能力に応じた課題解決に取り組めた。	A	引き続き、健康と安全への理解が深まるよう創意工夫したい。 近年、夏場に高温の日が続くため、「熱中症対策」の重要性を感じている。特に暑い体育館内、屋外での実技に関しては細心の注意を払うべきであろう。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	芸術 豊かな表現力と幅広い知識、加えて鑑賞する能力を高める。	基礎知識および表現方法を講義、実習において会得する。さらに芸術作品を鑑賞することにより感性を高める。	生徒の芸術に対する関心や創作意欲を高めるという点において、概ね目標は達成できた。	A	引き続き芸術への理解が深まるように創意工夫し、高いレベルの表現を追求させたい。
	外国語 英語 4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成することはもちろん、多言語・多文化への理解を育む。 第二外国語 ・基本的な文法、発音から始めて、最終的には読む・書く・聞く・話すの4技能の総合力をつけさせる。 ・それぞれの言語を通じて他文化への理解を深める。	語彙・文法事項の習得に加え、ペアワークや発表活動を通じて、対話や表現の技術を高める機会を提供する。 ・2年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。 ・全くの初心者からのスタートであることを前提に始め、3年次での学習にも繋げる。	4技能のバランスを意識した授業を行い、概ね目標を達成できた。  生徒のレベル差が見られる部分もあったが、4技能を意識したバランスの良い授業を展開することができた。	A  A	良質なインプット、生徒1人あたりのアウトプット、教員から生徒へのフィードバックをさらに増やすべく、工夫を重ねる。  ・定期的な発音のチェックを行い、忘れないようにさせる。 ・リスニング練習の回数を増やす。 ・実践の機会をさらに増やす。
	家庭 家庭生活への興味・関心を高め、主体的に生活に取り組み力を育み、基本的な技術を身につけさせる。	グループ学習を通じて自分と異なる考えを学び、安全で衛生的な環境で裁縫や調理の実習を行う。	身近な題材を提示してグループ学習を行ったが、取り組みに差があった。調理については整った環境で実習を行うことで従来と比べて安全や衛生に配慮できた。	B	グループ学習については題材の内容や提示方法を検討する。また、新しい実習室等を効果的に利用し、実習と講義をより関連させて展開できるような検討する。
	情報 情報社会を生きるための知識とモラル、および、情報を収集し加工するためのスキルを、生徒が着実に身につけられるような授業環境を整える。	知識とモラルに限らず、情報のスキルについても、概念的な理解で終わることのないよう、生徒に身近な実例やデータを示す工夫をするとともに、担当者間の意見交換の結果を適切に授業に反映させる。	担当者間の連携は良好だったが、生徒の理解が、特に情報の科学的な側面に関して、なお実践レベルに及んでいない点に課題を残した。	B	教科書と副読本の内容を再吟味し、基礎力の徹底を図るとともに、実践力に乏しいと思われる原因を明らかにし、その解消に向け、引き続き各担当者が工夫を重ね、情報共有をさらに強化したい。
選択科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生においては、選択必修科目として、第2外国語3科目（ドイツ語Ⅰ・フランス語Ⅰ・中国語Ⅰ）の中から1科目を履修することになっている。</li> <li>・3年生において、医学部・理工学部を志望する者は12単位、それ以外の者は9単位。志望する学部によって履修すべき指定科目がある。</li> <li>・また、3年生の社会では、日本史B・地理Bのいずれか1科目選択。</li> </ul>				
	国語 「古文」「漢文」「日本語」1・2年次の学習内容を踏まえ、さらに発展的な学習を、自発的に継続してゆけるよう指導する。	担当者の専門性を生かし、必修では扱えない高度な作品も読み込む。	必修では扱いにくい教材・内容を採り上げて、生徒の興味関心をさらに高めることができた。	A	言葉だけの理解に留まることなく、より本質的な部分に目を向けさせる授業をさらに目指す。
	社会 高校3年という大学への進路選択の時期にあたり、将来開発の一助とすべく実施する。政治入門・経済入門・法律入門・近現代史ではベーシックな内容を、高大一貫講座においてはよりアドバンスな内容を扱う。	大学研究者や実務家を積極的に招聘することで、目標達成につながることを期待する。特に高大一貫講座においては、その取り組みを重視する。	高大一貫講座では定期的に大学の研究者を招聘することができた。法律入門においてもロースクールの教授陣や弁護士をエキストラに招聘する取り組みができた。	B	今後は高大一貫講座や法律入門だけではなく、機会があればそれ以外の選択科目でも何らかの形で大学との連携を深めていけるよう取り組む。
	数学 基礎学力を充実させ、論理的思考力を育む。大学進学後に要求される高度な思考力、迅速かつ正確な計算力を養成する。	3年次に4科目を設置する。大学の授業に円滑につながるよう、授業を工夫する。	前向きに取り組んでいる。	A	より自主的な学習習慣が備わるようにしたい。
	理科 必修科目を通じて修得した知識、技能をより高め、専門性の高い環境で活躍できる基礎を醸成する。	より専門性の高い実習を行い、また問題演習なども扱うことで、深い現象理解と高い解法スキルを養う。	実験や観察を中心とした授業展開を行い、体験と座学双方のバランスを取りながら、自然や自然現象の理解を深めさせることができた。	A	大学での学習をより意識し、特に医学部、理工学部に進学して役に立つ内容については基礎をしっかりと固める展開を行う。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
選択科目	芸術 これまでに授業で培った知識を基に、豊かな表現力と幅広い感性で、各自の課題に取り組む。	基礎知識や表現の経験を基に高度な内容で実習する。さらに、芸術作品を鑑賞することにより感性も高める。	少人数クラスの利点を生かし、生徒の芸術に対する専門的興味に対応した課題設定をし、概ね目標は達成できた。	A	引き続き芸術への理解が深まるように適切な指導を行い、高い到達度を設定する。
	英語 学習者それぞれの目的に即した多彩な英語授業を提供し、英語力の向上を図る。	4技能を総合的に鍛える講座、映画を主な題材とする講座、検定試験対策に特化した講座を設け、学習を促す。	各科目の目的・特色に応じた授業を展開することができた。	A	次年度は選択科目の編成が一部変更となるため、それぞれの科目において、生徒のニーズに応じた授業展開を目指す。
	第二外国語 「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばし、総合力を高める中で、異文化理解も深めていく。また、大学での学習にも繋げていく。	3年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。2年次での学習を振り返りながら、より実践的なコミュニケーション活動なども行い、向上心と意欲を高める。	生徒によって達成度は様々であるが、取組目標は概ね達成できた。	A	生徒がよりアウトプットをできるようにするため、授業展開など工夫・改善をしていきたい。
	家庭 実習を通じて知識と技術を身につけ、様々な視点から家庭生活について考え、実践できる力を養う。	全ての生徒が体験を通じて考え、学べるよう、実習を中心とした授業を展開する。また、実習しやすい環境を整える。	実習を増やすことにより、様々な体験をさせることができた。また、調理室の改修により安全性、利便性を高めることができた。	A	より知識を高め、技術を習得させるために、テーマ設定や実習内容が適切なものになっているか再検討する。
	情報 生徒にとってややハードルが高い内容を含む「統計」分野の理解度を向上させる。	年間計画の中で「統計」分野を扱う時間を増やし、丁寧な指導を行う。	昨年度までより試験の成績の向上が見られた。	A	引き続き「統計」分野の理解度向上が課題。より興味を引く具体例にもとづいた実習を増やしたい。
特別教育活動					
クラブ活動・生徒会	クラブ活動を通じて、生徒の健全な心身の育成を目指す。学業とのバランスに配慮し、より充実した活動を心がける。活動中の安全管理を徹底する。各クラブの活動への経済的支援を可能な範囲で行う。一貫教育校の生徒会をはじめ他校の生徒会との交流をより充実させる。卒業生との連携をより深いものとする。	各クラブの代表者で構成されるキャプテン・マネージャー会議や、各クラブに携わっている監督やコーチを招いての監督・コーチの会等を通じて、安全管理に関する講習会を実施し、啓発を行う。全国大会出場支援募金を行い、出場する生徒の経済的負担を補う。首都圏の高校の生徒会役員を集めて行う招待会議を通じて、一貫教育校の生徒会の役員はもちろん、他校生徒会役員と積極的に交流を図る。	熱中症・脳震盪対策について、各会議で資料を配付し、その対策を図った。監督・コーチに対してBLS講習会を実施し、実践的な指導を行った。全国大会へ出場を果たすクラブの増加により、旅費支援に関して、1人あたりの支援上限額を見直し、年間を通じてより多くの生徒への支援ができるよう、配慮した。招待会議への参加を広く呼びかけ、多くの議題について議論を交わした。	B	各クラブに対し、無理のない活動を心がけることを徹底すると共に、指導者に対して、継続的にBLS講習会を実施する。必要に応じて、けが・事故等の防止策の資料を配付し、より安全な活動を目指すことを啓発する。全国大会出場支援募金は保護者会等を中心に継続して実施し、理解と協力を求めていく。招待会議は今後も継続して実施する。同窓会との連携を図り、講演会等の運営の協力を、今後も継続して行う。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
<b>安全管理</b>					
設備	教職員相互の協力を得て、定期的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。8月に日吉協育棟の竣工を迎えるが、その後の生徒の動線に目を配りながら、安全面に配慮する。	定期的に各教育施設の安全点検を行う。必要に応じて設備の修繕・改善を行う。熱中症・けが等の予防のための製氷機を、日吉協育棟内の施設（トレーニングルーム）に設置する。	部室棟を中心に大掃除、廃棄物処理、並びに点検を実施し、危険箇所の発見に努めた。 安全対策委員による校舎内外の点検を実施し、老朽化した設備など、その都度速やかに対処した。	A	教育施設・設備の保守・点検を定期的に継続・実施する。 教職員の相互の連携を図り、今後予測される教育施設・設備の修理・改善を積極的に行う。 生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通じた危険箇所の発見を継続して行う。
保健衛生	引き続き環境衛生調査を継続して行い、生徒の快適な学校生活のための環境を整備する。 保健衛生に関する情報を生徒に適宜提供する。 インフルエンザ対策を実施していく。	年2回、環境衛生調査を継続して実施する。 関係スタッフと相互に協力し、迅速に教室環境の充実を図る。 早めに学級閉鎖を検討していく。	・教室の二酸化炭素濃度は適切な濃度に保つことができた。 ・精米捻転の啓蒙を図るプリントを昨年度に引き続き配付した。 ・学級閉鎖を適切に行うことで、感染を広げずに済んだ。	B	・環境調査を引き続き実施していく。 ・インターネット依存に関する講演会を実施して、情報発信していく。 ・インフルエンザ対策を引き続き実施していく。
危機管理	非常時・緊急時に対応できる体制を作り、被害の拡大を防ぐ。 非常時・緊急時の備品の補充を継続的に行い、その情報の共有を行う。	避難訓練を実施する。 生徒・教職員対象のBLS講習を実施する。 緊急時一斉連絡システムを継続する。 熱中症については、発生しやすい夏季のクラブ活動に合わせて、啓発プリントを配付する。 備品の補充点検を9月に実施する。	4月に学校全体で避難訓練を実施した。 生徒対象のBLS講習を実施した。 監督・コーチに対するBLS講習を実施した。 緊急時一斉連絡システムを継続した。 熱中症に関する啓発プリントを配付した。	A	非常時・緊急時に対応できる体制のさらなる充実を図る。 非常時・緊急時の備品の補充を継続的に行い、その情報の共有を行う。
<b>運営</b>					
図書	2018年9月に図書室は移転リニューアルオープンする。読書推進の試みとして、教員や図書館司書だけでなく、利用者である生徒のアイデアも取り入れる。教員との連携で授業に繋がる蔵書構築を行い、調べ学習の充実を図る。	移転に伴い、利用者の目線で施設の改善を図る。生徒自らの読書推進に向けた活動意欲を汲み、企画立案の支援を行う。効果ある蔵書構築のため、教員へ授業に即した選書を促す。	移転後の図書室は、生徒の声を反映した施設となった。生徒の企画で「教員からの推薦図書」の冊子を作成した。教員による選書を積極的に受け、特に外国図書のコーナーを拡充した。	A	授業や卒業研究の支援について、従来の図書を中心とした連携に加え、データベースの利用を促進する試みを行う。既存データベース2種と2018年度新規導入3種の評価を行い、2019年度には更なる展開を検討する。また、図書館システムのリプレースを予定している。
<b>学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況</b>					
いじめ防止対策	生徒の声を受け止め、しっかり向き合う。 迅速に、組織的に対応する。 保護者、関係機関との連携を図る。	ホームルーム・学校行事・部活動への取り組みを通じ、望ましい人間関係の構築を促す。 担任による個人面談、保護者との面談を実施する。 相談室の活用を促す。	・クラスごとに年間に複数回の個人面談を実施した。 ・保護者、生徒に相談室の積極的利用を促し、連携して対応した。	B	・早期発見のための取り組みを模索する。 ・さまざまな研修会に参加し、今後の取り組みへの参考にする。